

サステナビリティ研究所紀要第2号： 目次,投稿・執筆要項,奥付

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 武蔵野大学サステナビリティ研究所 公開日: 2025-03-10 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000517

武蔵野大学サステナビリティ研究所紀要

THE BULLETIN MUSASHINO UNIVERSITY
Institute of Sustainability Sciences

第 2 号 No.2

目 次 CONTENTS

AI・Web3.0 と共創的 ICT のサステナブルイノベーションプラットフォーム — 対話し学びあう学習ネットワーク (Learning web) AI・Web3.0 and Co-creation ICT for Sustainable Innovation Platform Learning to live together and Learning web	長岡素彦 Motohiko NAGAOKA	1
環境科学基礎講座—細胞膜の構造について Basic Course of Environmental Science — Structural Study on Cellular Membrane	塩澤豊志 Toyoshi SHIOZAWA	17
災害ボランティアに求められる有効な呼吸用保護具の適切な装着に関する意識と知識 The Awareness and Knowledge to be Demanded for Disaster Volunteers Concerning in the Proper Wearing of Effective Respiratory Protective Equipment	伊藤伸也 Shinya ITO	29
多様な言語の保存と文化の持続的な発展を目指す台湾の言語教育 ～屏東における日本語教師としての経験をもとに～ Language Education Promoting Linguistic Diversity and Sustainable Cultural Development in Taiwan from the Perspective of Japanese Language Teacher in Pingtung	林祥史 Yoshihito HAYASHI	35
地方圏における若者の地元定着をテーマにした競争型 PBL の実施 Implementation of Competitive Project-Based Learning (PBL) for Retaining Youth in Rural Regions	山口泰史 Yasufumi YAMAGUCHI	43
北米における石炭火力発電に関わる CCS の 25 年 - FutureGen, Kemper County IGCC, Petra Nova, Boundary Dam - 25 years of Coal Power CCS Demonstration in North America - FutureGen, Kemper County IGCC, Petra Nova, Boundary Dam -	横山隆壽 Takahisa YOKOYAMA	59
食品リサイクルの実態と法制度の課題 ～拡大生産者責任からみた法律改正の方向～ Evaluation of Food Recycling Law from the perspectives of the reality and Extended Producer Responsibility	武山尚道 Hisamichi TAKEYAMA	79
環境危機に対する社会運動の意義 その危機を克服する道筋を求めて The significance of social movements against the environmental crisis : Seeking a path to overcome that crisis	大倉 茂・笠原 恵美・渡邊 直樹 Shigeru OHKURA・Mekumi KASAHARA・Naoki WATANABE	95
ごきげんな地域づくりに向けた人間の「態」についての試論 — 地域社会における「コーディネーター」をめぐる展開と今後の展望— An Essay on Social Personality Theory for Co-creation of Well-being Community — Developments and Future Prospects for “Coordinator” in Regional Society —	早川 公・大野 はな恵・近藤 武夫 Ko HAYAKAWA・Hanae ONO・Takeo KONDO	107
地方都市在住者と二地域居住者のフォーカス・グループ・インタビュー調査 Focus group interview survey of residents in rural cities and dual-life residents in Japan	吉田 綾 Aya YOSHIDA	119

武蔵野大学サステナビリティ研究所
Institute of Sustainability Sciences, MUSASHINO UNIVERSITY

2025

武蔵野大学サステナビリティ研究所紀要投稿・執筆要項

1. 目的

武蔵野大学サステナビリティ研究所紀要（以下「紀要」という）は、武蔵野大学（研究所・大学院を含め以下「本学員および大学院学生等の研究成果（以下「論文」という）を年1回公表することを目的とする。

2. 投稿資格

- (1) 紀要に投稿できる者は、①嘱託・客員・非常勤を含む本学教員・研究員ならびに大学院学生・研究生、②本学関係者で紀要編集委員会（以下「委員会」という）が認めた者、③委員会が投稿を依頼した者、とする。なお以上の原則に該当しない場合は、委員会が判断する。
- (2) 前項②の「関係者」とは、大学院を修了・退学した者で本学に提出した修士論文・博士論文に関わる成果を発表しようとする者、および本学の研究活動と密接に関わる成果を発表しようとする者（共同研究の相手方など）、とする。なお、修士論文関連の投稿は論文提出後1年以内、博士論文関連の投稿は論文提出後2年以内に限る。
- (3) 大学院学生・研究生および(1)項②の「関係者」は、事前に指導教員または担当教員の承認を得たうえで、当該教員を通して投稿申し込み、原稿提出、校正刷りの受け渡し等を行う。
- (4) 論文は未公開で和文または英文によるものに限る。なお投稿は1名につき1編とするが、筆頭でない共同執筆者となる場合は複数の投稿を認める場合がある。また筆頭でない共同執筆者の範囲は、論文への相応の貢献が認められる限り、特に制限しない。
- (5) 投稿者は、共著者も含め、投稿論文が電子化され、広く一般に公開されることを前提に、著作権・肖像権等が処理済みであること。

3. 年間スケジュール

- (1) 論文の投稿申し込み期限は毎年7月末日、原稿の提出期限は10月末日とする。
- (2) 紀要の発行は翌年3月とする。

4. 投稿要領

- (1) 電子媒体の原稿と出力イメージの両方を提出する。
- (2) 原稿（和文）はA4判用紙（縦置き）1枚に横書き43字×38行の印字で16枚以内とする。これには、表題から文献リストまで、本文、図、表、写真、抄録等の一切を含む。英文の場合もこれに準じる。
- (3) 和文原稿の表記には、特別な理由がない限り、常用漢字、現代かなづかい、算用数字を用いる。
- (4) 原稿冒頭に約12行分を確保し、①和文表題、②英文表題、③執筆者氏名（和文表記）、④執筆者氏名（ローマ字 or 英文表記）を記載する。なお、冒頭頁の脚注となる執筆者情報は委員会で編集する。
- (5) 図、表、写真の挿入箇所は十分な誌面余裕をもって指示し、これらの原稿は、1件/頁の印刷が可能な形式で別ファイルに格納する。なお、イメージファイルについては十分な精細度を持つものに限る。

5. その他

- (1) 論文は無審査を原則とするが、掲載の適切性に疑義がある場合は、委員会の指示にしたがうこと。
- (2) 校正は2回、委員会を介して実施する。校正時に大幅な変更があった場合は、掲載を拒否できる。
- (3) 抜刷は希望者には白黒印刷で10部までは無料、それ以上の部数またはカラー印刷を希望する場合は費用は著者負担となる。
- (4) 論文の著作権は執筆者に帰属する。ただし、紀要の刊行により公表された論文について、本研究所は成果公表目的の範囲内で複製、翻案、公衆送信、リポジトリ（電子アーカイブシステム）等の権利を保有する。

武蔵野大学サステナビリティ研究所紀要編集委員会

委員長 白鳥 和彦

委員 真名垣 聡

武蔵野大学サステナビリティ研究所紀要 第2号

2025年3月1日発行

編集 武蔵野大学サステナビリティ研究所紀要編集委員会

発行 武蔵野大学サステナビリティ研究所

〒135-8181 東京都江東区有明 3-3-3

電話 03-5530-7730(研究支援部学部事務課)

印刷 株式会社創文

〒103-0016 東京都江東区東陽 4-11-38

JMFビル東陽町01

電話 03-6634-2573
